家畜保健衛生所たより

平成28年度　第14号

平成28年11月10日

東部家畜保健衛生所

抗菌剤は慎重に使用しましょう。

～　11月は薬剤耐性対策推進月間　～

抗菌剤の慎重使用等対策を進め、消費者の信頼に応えましょう！

●抗菌剤は家畜の健康を守り、安全な食品を安定的に生産するための重要な薬剤です。
●抗菌剤をむやみに家畜の治療に使うと、薬剤耐性菌が生き残り、抗菌剤の効きが悪くなることがあります。
●また、万一、薬剤耐性菌が人に感染すると人の病気の治療に使う抗菌剤が十分に効かなくなる可能性があります。

そのため・・・

関係者が連携して抗菌剤の 慎重使用 に取り組むことが必要です。

獣医師、生産者、動物医薬品業者、家保 等

慎重使用の具体的な取組

①飼養環境を整え、家畜の健康を維持しましょう。

②過去の感染症の発生状況を確認し、原因菌を特定しましょう。

③感受性試験＊などを行い、有効な抗菌剤を選びましょう。

＊家畜保健衛生所に相談して下さい。

家畜の病気に関するお問合わせは山梨県東部家畜保健衛生所まで

電話・・・055-262-3166　　FAX・・・055-262-3108

夜間の連絡は・・・090-5535-8005

土日・休日の連絡は・・・ 090-5535-8005 または090-5544-7868

◇ 抗菌剤の慎重使用の取組事例 ◇

豚

- 大腸菌症により離乳豚の10%以上が死亡
- ビコザマイシンなどの抗菌剤を使用したものの、菌が耐性化し、沈静化せず

↓

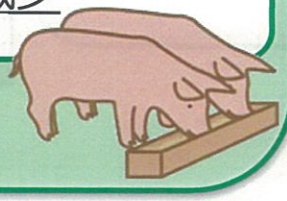
- 抗菌剤の使用を８ヶ月間休止

↓

- 感受性試験を行った結果、ビコザマイシンなどに対する菌の感受性が改善したため、ビコザマイシンなどの使用を再開
- 抗菌剤の選択は、感受性試験に基づいて行うことなどの取組を一層徹底

↓

- <u>大腸菌症は沈静化し、死亡頭数が５%以下に減少</u>



肥育牛

- アンピシリンなどの抗菌剤を第一次選択薬として3年間使用した結果、パスツレラ菌が耐性化し、治癒率は50%に低下

↓

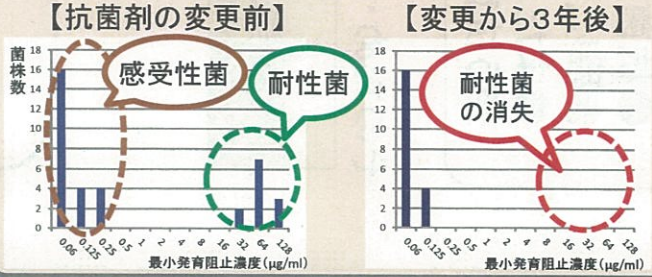
- 感受性試験で有効な抗菌剤を確認し、抗菌剤をアンピシリンからフロルフェニコールに変更
- アンピシリンは３年間使用を休止

↓

- <u>治癒率は90%に改善</u>
- <u>アンピシリンに対する菌の感受性が改善</u>

（今後、フロルフェニコールの感受性が低下した場合には、再度アンピシリンを使用することを検討）

<u>パスツレラ菌のアンピシリン感受性の変化</u>



※NOSAI山形 加藤らのデータより引用

ブロイラー

飼養衛生管理の徹底

- 素びな導入前の水洗・消毒の徹底
- 適切な飼養管理と飼養環境づくり
- ワクチン接種の確実な実施
- 疾病や飼養管理などに関する定期的な学習会や指導

＋

第二次選択薬の使用制限

- 第二次選択薬であるフルオロキノロンは、最終選択薬として感受性試験後に使用し、通常は使用しない

↓

- <u>大腸菌症の発生件数が大きく減少</u>
- <u>フルオロキノロンの耐性率が減少</u>